

ゴミは収集日の朝に出す



リスクを少しでも減らしましょう！

～放火されないように～



家の周りに燃えやすいものを置かないようにしましょう。

特に、ゴミや雑誌、古紙などを置いていると、
わずかな火種でも着火してしまいます。

散らかっているところは、燃えやすいものが増えるばかりでなく
人が寄り付きにくくなります。

自分の家のまわりは整理整頓しましょう。

共同住宅でも、住民それぞれが気を配って、
キレイな状態を保ちましょう。

また、公園や道路なども同様に、
ゴミを無くして、気持ちの良い状態にしましょう。



家の周りに燃えやすいものは置かない



常に整理整頓しておきましょう！

～放火されないように～



車庫や物置など、自宅と離れた建物も
必ずカギをかけましょう。

放火犯は、人目に付かないところを好みます。
周りから見えずに隠れることができる場所は特に注意が必要です。

また、家の周りが塀やフェンスなどで囲まれている場合は
その出入り口もなるべく施錠しましょう。

特に、高い壁で囲まれていて、周りから中が見えない家は、
中に入ってしまうと、放火や空き巣に遭いやすくなります。



車庫、物置には鍵をかける



敷地内の出入り口も施錠しましょう！

～放火されないように～

放火は人気のない深夜から明け方の
時間帯に起こりやすいと言われています



放火は、人気（ひとけ）の少ない深夜から明け方に起こりやすいと
言われています。

外灯はセンサーライトにしたり、
砂利を敷くのも良いでしょう。

ゴミを翌朝に出そうと思って、家の前に置いておくのもマズイです。

放火犯がいなくなることが最も理想ですが、
『放火されない』状態をつくっていくことが大切です。

おしまい、おしまい。



放火は人気のない深夜から明け方の
時間帯に起こりやすいと言われています



～放火されないように～



全国的に、火災原因の上位に、『放火』があります。

「むしゃくしゃして」とか、恨みとか、火遊びや愉快犯とか、その動機は、犯人にしか分かりませんが、放火犯の心の内までも変えていくことはできません。

また、意図的な放火だけでなく、タバコのポイ捨てなどから出火してしまうこともあります。

燃えてしまったものは元には戻りません。
放火されることを防ぐにはどのようにしたら良いのでしょうか？
一緒に考えていきましょう。

ゴミに火をつけられることが多いです。
夜中や、指定日以外の日にごみを出さずに、必ず、収集日の朝にごみを出しましょう。

